

潮来市の誇れる自然 第94回

水郷の魚たちー アメリカカナマズの卵塊

6月の水郷潮来であやめ祭りを満喫したあと、少し足を延ばして鹿島神宮に向かうと、地震を起こす大ナマズを押しさえつけているという要石を見ることが出来ます。この江戸期以降の伝承ではなく、いまの水郷の大ナマズといえ、霞ヶ浦で大增殖している北アメリカ原産のチャネルキャットフィッシュ（アメリカカナマズ）でしょう。

アメリカカナマズは霞ヶ浦では1980年代に初めて見つかり、2000年以降は優占するほど多くなっています。ほかの魚やエビを食べたり、ひれのトゲで漁業者がケガをしたり、漁獲物を横取りしたりと厄介な存在です。これほど増えた魚ですが、長らく国内の自然水域ではどこで産卵しているかわからない状態でした。近年、釣りの専門家が石積み穴に手を入れて、卵とそれを保護する成魚を採取した事例はあったものの、標本に基づく種同定を行う必要がありました。

産卵盛期と予測される6月下旬に、霞ヶ浦の石積みみ域で潜水調査を実施したところ、大きな石（30cm以上）と砂質底の間に形成された間隙から、3つの卵塊（長径約20cmで、卵塊1つあたり平均1.7万粒）が採取されました。同時に、ふ化仔魚（全長約9mm）も得られました。卵は形態と遺伝子に基づいてアメリカカナマズに同定され、ふ化仔魚もヒゲの形状、筋節数、体色素素などの特徴が本種と合致しました。

今後、石積みみ域での継続調査で本種が産卵しやすい場所の特徴を把握し、産卵適地を減らすなど繁殖抑制を行いながら、水郷の食文化に関わる在来種の暮らしやすい場所を増やしていく方策の検討が望まれます。水郷の大きな石とナマズをめぐる物語は、いまも形を変えて続いています。



写真 2023年6月下旬に採取されたアメリカカナマズの卵塊（山崎和哉 撮影）

茨城県農林水産部水産振興課
茨城大学水圏環境フィールドステーション
山崎和哉
加納光樹

地域おこし協力隊通信

第83回



本多 晃大さん
(ほんだ こうた)

プロフィール

出身地:

大阪府枚方市

所属大学:

千葉大学大学院
園芸学研究科

趣味:

読書、お笑い鑑賞、
る舟

潮来市のあやめ栽培を継いでいく

*ここであやめとは花菖蒲などをはじめとしたアヤメ科植物全般を指します。トイプードルや柴犬を見た時に「犬だ!」と三つ感ずる。ちなみにあやめ園の99%は花菖蒲です。

はじめまして。潮来市地域おこし協力隊の本多晃大です。潮来市のあやめ栽培を後世に残す活動をしています。周りの方々には「あやめマン」と呼ばれているので、皆さんにもそう呼んでもらえると嬉しいのです。

昔は市内のいたるところで咲いていたのですが、今では片手で数えられるほどしかあやめ農家さんは残っていません。

あやめは潮来市のシンボルというだけでなく、日本にとっても歴史的、文化的な価値が非常に高い伝統園芸作物です。また、私のおばあちゃんにあやめを育てており、個人的にもあやめは特別な花です。そういうわけで、あやめ栽培を守りたいと思います。私は潮来市で地域おこし協力隊をしています。

今は農家さんやあやめ園の管理をしている方たちからあやめ栽培のことを学んでいます。夏からは実際に育て始めて、来年以降のあやめまつりでお披露目できればと考えています。

これが掲載される頃は花菖蒲が見頃を迎えていると思います。あやめ園で皆さまとお会いできることを楽しみにしております。